

群馬県立館林高等学校

同窓会会報

特集 恩師からのメッセージ

昨年、館高同窓会は五年ぶりに、恩師の皆さんに同窓会会報を送った。その際、「近況」「館林高校での思い出」「教え子たちに一言」の内容でアンケートをお願いした。その結果39名の恩師よりご回答をいただいた。お寄せいただいた貴重なアンケートを通して、恩師の「今」とその「想い」に迫ってみた。

なお、ご回答下さった恩師のご芳名は、紙面の都合で八割に省略した。

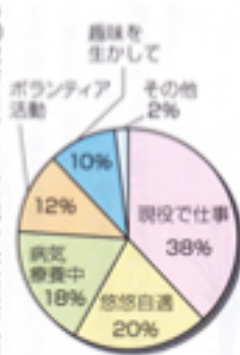


●現在の正門前の桜並木



●昭和43年ごろの学校空景

恩師の近況



- 70歳付になりましたが、お陰様で健康で公認会計士事務所を営んでおります。
- 毎朝近くの金山を散歩したり、畑の作業や樹木の手入れなどして体力維持に努め、またボケ防止のための囲碁もよく打ち、数学の問題との付き合いも続けています。
- 現在73歳「新田庄史跡ガイドの会」に属し郷土史の研究と普及に努めています。また、地元区長も元気にやっています。
- 演劇、古希を越え、講師団体の日々を過ごしています。お陰様で体調良好、春にアラスカ、秋にバルト海三国を周り北半球の自然と歴史を体感してきました。園芸センター緑の相談員として緑化相談や植樹活動に取り組んでいます。
- 昨年から入院中で本人が筆を執ることができません。元気な頃の主人は、よく院高の話をしてくれました。
- 現役で活躍中の恩師はもとより引退された後も、地域と様々な関わりをもって、人生を前向きにエンジョイされている恩師が多いことは、頼もしいかほひである。

館林高校への思い

- クラブ活動を指導した思い出や学校のイベントに関する事をあげる恩師が多い。
- 商業科の廃止による館林商工高校の閉校準備等で忙しくも充実した生活が送られた。
- 第一回50km強歩大会を生徒職員一丸と
- なつて立上げた事（よくあんな事が出来たなあ）。
- 地元開催のインターハイで館林レスリング部が全国優勝し生徒と感涙の涙した事。
- 生物部が全国学生科学賞で2等賞を取った事。
- 山岳部、ワンダーフォーゲル部の夏山合宿等。
- 6年間の在籍でしたが、その間ずっと吹奏楽部顧問でした。中学に楽器を借りて行くと、よく生徒とまちがわれました。
- やはり生徒と共に歴史を作った思い出は、恩師の胸に深く刻み込まれている様である。館林高校から教員生活をスタートした恩師は、
- 大学卒業して最初に教壇に立ったのが母校なので親しみをもちて生徒に接する事が出来た。
- 大学卒業直後で津波にもあつた。生徒と共に一緒に汗を流したことが一番の思い出です。
- 児童分的な立場で指導した事もあり、卒業後も教え子達と酒を酌み交している。
- としまじみ振り返る。
- 思い出が更に鮮明されている恩師は、
- やりがいのある楽しい毎日と勤務出来た事に今でも感謝しています。
- 貴重な思い出は山ほどありますが、館高生の遠かい人柄は生涯の家となっています。講義を眺みに、よく私の下宿にやってきた。あの顔、この顔！
- うちで当時の生徒との交流は私の人生の宝です。
- 思わぬ所で卒業生から声をかけられる事があり、とても嬉しい。
- と、懐心からの感謝で結んでいる。また、商業科最後のクラスを担任し、無事卒業させた事、淋しさが残った。
- あまり熱心ではなかったので申し訳なく思っている。
- と若干悔いを残されている恩師もおられた。

教え子たちに「ありがとう」

- たくさん「一言」を頂きましたが、いくつかを紹介いたします。
- 自分には出来ることと信念で拼搏すれば決して不可能な事はありません。
- 初心を忘れず、世界にはばたけ！
- 決めた目標に向かって最大の努力を払いその道の専門家になって下さい。
- 一度限りの人生に悔いを残さぬように、目一杯の自己表現を！
- プライド（自分を大切にすること）をもって一歩一歩進歩しなさい。
- 「ひと呼吸してから行動しよう」と慎み、礼の薄れた世の中、人生80年ノんびリ、ユツタリ、ノホホン生活をしたいのでは。
- 定年を迎えたり、定年近辺になった教え子の皆さんとまた、酒を酌み交わしながら旧交を温めたいものです。
- やがて「無」に還ることをいつも心に置いて自分なりの哲学をもって生きて下さい。
- 恩師を情すかのようにアドバイスを寄せられている。更に、
- 随分進歩のランクを上げていますなと感じました。教職員の方々も頑張って下さい。
- 館林高校が大きく前進していることを知り非常に嬉しく思っています。さらに地域から信頼される様、発展を祈っております。
- と館林高校への期待を込めて大きなエールを送られている。
- アンケートをまとめている中で感じた事であるが、恩師は館高を去っても母校への愛着・期待・関心は高く、教え子との出会い、そして共有した感動の数々をつづる筆跡の中に、恩師の深い愛情の想いが凝縮されていると感じた。そこで卒業生の皆さん、時には連れ立って恩師を訪ねては如何ですか、恩師の心とておきか笑顔が待っている事請け合います。

心の支えになる 同窓会活動を

同窓会報第七号発行にあたりご挨拶を申し上げます。同窓生の皆様には、それぞれの立場でお元気に活躍のことと拝察いたし、心から感謝とお礼を申し上げます。

あいさつ

同窓会報も会員皆様のあたたかいご協力で支えられて第七号発行を迎えることが出来ましたことに対し心から感謝申し上げます。



同窓会長 岩瀬 弥市

母校館林高校は歴代の校長先生始め諸先生方の熱心な生徒への愛情溢るる指導により、力強く前進し飛躍いたしております。私達卒業生にとっては精

せていきたいと思っております。今の日本の現状は、人と人とのつながりがうすく、安心して生活できない居心地の悪い国になっているのが実感です。力を持たない国は将

母しく思い、更なる限らない発展を実現を心から願っております。私達同窓会も母校と共に歴史と伝統を大事に守り、同窓会活動を会員皆様のこの支えをいたさながら、より充実さ

来がないと言われるあります。力には色々ありますが、徳の力、文化の力、経済の力、やさしさの力など、今の日本は力がみんな落ちてきているのが現状です。この現状を認識して、日本人として今何を考え何をなすべきかを考える時代だと思います。このようなむづかしい時代にあつて私達館林高校同窓生の仲間として共に助け合ひ、助け合つてより交流を深めこれからの時代を生き抜いてまいりたいと思ひます。

最後になりましたが同窓生皆様の限らないご活躍とご健康であることをご心から祈念申し上げ会報第七号発行にあつたご挨拶とさせていただきます。

あいさつ

高校はいま!

同窓会員の皆様には、日頃より母校館林高校に熱いまなざし、お心遣いいただき、誠にありがとうございます。

少子化問題が社会経済に大きく影響を及ぼす中、1丁の発展に伴つた付加価値の創出から、ますます複雑な時代になり、大衆生産大量消費の時代から価値観も含め地球規模で大きく様変わりしました。

学校教育においても、評価制度導入など、変革を余儀なくさせられているのが現状です。従来、生産性を上げる「評価制度」が教育の中に導入され



校長 伊藤 収

ました。学校教育に置ける評価制度はいくつかの側面がありますが、いずれにせよどのような評価があろうとも教育の原点である授業にウエイトを置き、如何に生徒の学力を伸ばすか、基礎基

本を定着させるかと言った観点は守りたいと考えており、全教員で取り組んでいく事が基本であると考えております。

この春の卒業生は一学級減で、国公

立現役合格五五名と昨年より減少したものの卒業生の九四%が大学進学を現役で達成しました。今後も、生徒の目標達成のために全力で取り組んでいきたいと思ひます。

本年度入学者は二四一名でスタートしました。本校の生徒には、心身を鍛え、脳を鍛えることに努力するよう指導しています。学校は生徒が自ら吸収する場として条件を整え歩み続けたいと考えています。

母校のため、今後も同窓会各位の暖かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。



平成17年度 OBによる職業進路講演会

OBが学校へ OBによる 職業進路講演会

六月二十五日(土)に開催。今年度は二つの新しい試みがなされた。第一はパネルディスカッションの形式を取り入れた点、第二は生徒参加型にした点である。第一部は「高校生として生きる」、第二部は「社会人として生きる」というテーマで、生徒の代表も加わり、生徒の疑問等に跟前線で働くOBが現場の生の声で答えた。生徒達は働く喜びやたいへんさを理解すると共に、仕事に必要な技術や資格の取得の重要性についても共通認識ができた。

● 出席いただいたOB
館長 岩瀬 弥市(27年卒・弁護士)
* 当日はご奥女の館長御子、秋定 宏和(ご夫妻が代理)で出席。

- 河村 博(50年卒・ホテル人事担当)
- 正田 茂(55年卒・自動車デザイン)
- 杉田光華(54年卒・臨床検査技師)
- 太田任伸(55年卒・企業経営アドバイザー)

平成十七年 同窓会本部役員

- | | | | | |
|-------|------------------|--------------|--------------|---------------|
| 参 与 | 谷津 善男(二十八年卒) | 矢口 昇(二十五年卒) | 安室 潤一(四十二年卒) | 松本 耕司(三十八年卒) |
| 会 長 | 岩瀬 弥市(二十五年卒) | 副 会 長 | 小橋 泰男(二十六年卒) | 宇治川 昌司(二十七年卒) |
| 監 事 | 高木 貞一郎(二十七年卒) | 橋本 清(四十二年卒) | 尾形 賢男(二十年卒) | 鈴木 敏男(二十三年卒) |
| 支 部 長 | 鈴木 敏男(二十三年卒) | 板倉 秋野(二十九年卒) | 吉永 五三(二十二年卒) | 武井 豊良(三十年卒) |
| | 千代田 善山(三十年卒) | 尾山 敏雄(二十年卒) | 河内 初光(三十年卒) | 小橋 泰男(二十七年卒) |
| | 館長会 小橋 泰男(二十七年卒) | 大隈 允雄(三十八年卒) | 関口 久(二十七年卒) | 鈴木 実(四十二年卒) |

学年同窓会

卒後10年に発足「たぬき会」
毎年新年会や旅行会で励まして

私達は、入学から4年生までは一緒だった級友達も、教育制度の改訂により旧制館林中学校を23年に卒業した者と、残って新制高等学校を24年に卒業した者との二分された。

館林高校は北関東の最も高い学校で、校舎を取り囲む松林と門前に生徒を送迎してくれた桜並木の美しさのほかに個性豊かな教師陣に恵まれていた。

私達は、教師に対する尊敬の念を「あだな」で呼び、何時までも多感な少年時代の心情を残して思い出のよすがとすることになっていた。

終戦直後からアメフト、ラグビー、サッカー等の球技を教えられた体育の「ネジ」、グライダーの訓練を指導した英語の先生「下駄トク」、歴史の先生は講が付けたのが「タヌキ」と呼んだ。タヌキとあだなされた先生の名は横田先生と言う。私は家業第一の学生生活を送っていたので勉強が出来なかったが、何か先生の講義で聞いたソビエトの南進政策が印象に残っていた。

「たぬき」という、あだなが付けられたのは太くて黒い縁のロイド眼鏡をかけた表情がタヌキに酷似していたからなのかも知れない。卒業後しばらくして同級生が連絡し合い集まった。飲み会の席上で「館中の卒業生と館高の卒業生が大勢東京に来ている、夫々に知って仲間の誘い出して同級会を作ろうではないか」との意見が出された。

誰もが古やのはずもなく即座に「同級会」の設立が決まったのである。世話人会メンバーを互選によって選ぶことにし鈴木敏男・藤野敏三・荻野安蔵、故人になった加藤・川島・中西・藤木君など陣容を整えた。

世話人によって適ちに名簿作りが始められた。そして在京者の殆どをチェックして「同級会結成」の元としたのである。

10年後の再会

昭和34年になって漸く大方の同級生に連絡がついたので神田駅から昭和通りに向ったところの料理屋に集まることになった。総勢50人衆の会合になった。

この第一回同級会とも云うべき会合には先に述べた旅中で歴史の先生だった「横田先生」を招いたのである。何年振りかでお会いした横田先生は中学校時代のイメージそのままだった。私達の思いやりが滲み出ていて嬉しかった。相変わらず自分がギョロツとしてはいない、あまり笑顔は見せない方だったがこの時には満面に笑みをたたえていたので、お招きをしておいたと思った。この日に夏会の席上で同級会の名を「たぬき会」と呼ぶことにしよう、と提案して満場一致の採択されたのである。

その時から、毎年二月には新年会を開き、中間で旅行会を計画して交通の輪を広げて行った。旅行会は10月の紅葉狩が主だが、当番制で世話人を割り幹事役を務めるルールも出来ている。4・5歳頃からと長野原の肥料高原・栃木県の奥鬼怒温泉郷・群馬県の騎ヶ京温泉・福島の王子温泉が記憶に新しい。反省会とか準備会とか口実は何れでもあつて

要は皆で集まって飲み会をやるのを楽しみながら、お互いの健康を確かめ合っているのである。

そして、不幸にも他界していった仲間には皆で話しあつて弔問に訪れ、悲しみを分かち合い、在りし日を偲ぶ集いも行なつて来た。

昨今では、元気な者達の会合になり10数名となつてしまつたが、「今日の佳き日を有難う」という思いで「生前の交遊に悔いのないように」を古い言葉として集まつては飲んだくれていた。

24年卒 荻野安蔵記

和気あいあいの
館高28ゴルフ会



十友名花十友といつて古人は好きな花を十友の友とした。茶蘭(び)を蘭友、茉莉(まつり)を雅友、幽香(ちんちようげ)を殊友、荷花(はす)を淨友、桂(かつら)を仙友、海棠(かいどう)を名友、梨花を佳友、芍薬(しゃくやく)を艶友、梅を清友、楊子(くちなし)を神友とした。

人間にも十友が欲しいものだ。この名文は館高28年卒業の同級生ゴルフ会の案内状の巻頭語として平成17年度第2回例会の幹事で、本会の会長長谷川博氏が安岡正徳(師)と表から引用したものである。昭和28年3月卒の同期生は第2第3の人生を終え、殆んど古稀を過ぎていた。私がこの会に誘われたのは平成15年10月熊谷市の大森生ゴルフ場へが初参加であった。参加者10名中卒業以来初めて会う人も数名いたが、プレー中に在学時の思

い出がよみがえつて来ました。

自営業でまだ活躍している人もいるが、ワンデー毎日の人が殆んどで、使い果たした体力をいつまでも維持して、旧友たちと話し話しや身の上話し等をしながらいつまでも健康で元気に古き友とゴルフを楽しみ、長生きしたいとの共通の願いは皆違わない。次回の例会は9月28日川島において前同窓会幹事の町田勇氏の幹事の基に、本年度3回目の例会が開催される。28年3月卒業のゴルフ愛好者の皆さんのご参加大歓迎です。ご連絡は大野まで。(電話0276-89-1480)

28年卒 大野商平記

還暦記念の十商会

十商会は昭和三十八年卒業の商業科第10回卒業生の会である。前同平成十五年一月十九日にジョイハウスにて開催して以来の同級会で今期初めて会場を定例に移して去る四月十六日に開催されました。参加者二十六名、遠くは千葉県浦安から参加もあり盛況のうちに終了致しました。今期四月に行つた理由の一つに全員が還暦を迎えた時点で集まろうと考えた訳です。仕事を定年退職した人、現役で頑張っている人あり、また子供の話し話の話しと話題に事欠かず三時間がまたたく間に過ぎました。また会場で写した記念写真が六月二十日の上毛新聞同窓万載に掲載され参加者全員に記念写真といっしょにコ

ビーを送付しました。これも思い出の1ページになれば幸いです。また仲間の一人が仕事を台湾に行つており、還暦を記念して台湾旅行をこの話になり現在準備を進めております。最後に今回の参加者が少ないように思われます。次回開催の同級会にはより多くの参加を戴き楽しい十商会になるよう希望し現状報告とさせていただきます。

38年卒 初谷充敏記

定期的な同窓会を計画

館林高校普通科を一九七〇年三月に卒業した我々(全卒業生約百六十名)は、五十代に入つたのを機に二〇〇三年八月に同窓会を行ないました。卒業から三十年以上の時が過ぎ、同窓会通知を送る事が大変な事でした。しかし今後の通知・連絡を正確に行なう為にも、幹事会は「同窓生の現住所調べ」を頑張りました。結果的には三十六名の出席となり残念でしたが、なつかしい友と交感できた楽しさは三次会・四次会へと連なり、大いに盛り上りました。



今後は五年ごとに定期開催しようとする者や約束した事もあり、幹事会は年に数回の会合を持ち続けています。次回はお出向目標を全卒業生の約半数の八十名とし、多数の出席を得られるよう企画したいと考えています。

47年卒 藤野敏三記

めぐな元氣に仲良く集い

館泉会会長 河内初光

館泉会も皆々様の心からなるお力添えを得て、元気に活動を続けております。会員もその後更に増え、現在までの入会者は111名、うち物故会員四名、現在員107名です。現在、町在住の同窓生は約200名です。これから、入会率は約10%です。これからの一人でも多くの方に入会して頂き、元気に活動したいと思っておりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

特に、若い方々にご理解を賜り是非入会して頂きたいと願っております。因に現在の会員の平均年齢は六六歳です。年齢別構成は、70歳以上30名、60歳代60名、50歳代16名、40歳代1名、計107名です。

現在、私たちを取り巻く環境は、国の内外を問わず、地域社会においても、おおいに問題・課題は山積です。この様な中にあるにあって、同窓の絆をより一層強化すること



12ページにわたる会報も7月号まで発行



は、これまた頼る大事であると思えます。

館泉会の主な活動は、①新年総会・懇親会を始め、②新規名簿の作成、③会報発行、④ゴルフ大会（本部と館泉会）、⑤自治役員会、⑥本部同窓会総会・懇親会参加、⑦各支部同窓会総会参加（東京・板倉・明和・千代田・徳栄・太田）⑧その他、有志による様々なイベントも小まめにやらせて頂きましたが、これからも、同窓会組織ならではの活動を皆様のご意見ご要望を聞きながら企画したいと思っております。

会報もお結構で第7号を数えましたが機関紙として、話の広場、として果たす役割は頼る大事です。縦横の絆の強化と同窓会の歴史を築くために無くしてはならないものです。

会報には、今後とも、母校の先生、在校生、並びに本部・各支部同窓会の皆様を始め、地域社会の皆様にも幅広く参加して頂き開かれた会報に

したいと思っております。

「人生七十古来稀なり」とは、詩聖杜甫の詩句の一節ですが、これは昔の話、世界の長寿国となった現在、男盛りは、まさに七、八十は歳か九十です。私ごとで恐縮ですが、私も来年は、古稀です。しかし、気分はまだまだ「お元気さん」です。

最後に、生き甲斐は楽しきことと悟りけりです。「みんな元気に仲良く、楽しく」をモットーにこれからも元気に同窓会を続けたいと思っておりますので、宜しくご指導ご鞭撻願いますようお願い申し上げます。

行事多彩な東京同窓会

会長 鈴木敏男

東京同窓会も来る10月15日第24回総会を迎える事になり、着々準備を進めているがその前に恒例の屋形船による納涼会が8月26日に催される予定で参加者を募集中である。

出合いを満しての交流を促し、種々の催しに参加、懇親を深め且情報交換等するのは会存続の魅力に繋がるので、折りに触れ会員夫々の参加を呼びかけている。

県内他高校東京同窓会との交流も頻繁になり、7月18日には前高、高と我が東京同窓会との対抗ゴルフコンペも、赤城国際で和気藹々で行われ上記の納涼会にも一部合流希望も寄せられている様である。

来年は創立25周年になりこの記念行事も行う予定なので、その内容を如何にすべきか、相談し合い年内にはその大綱を決める予定である。

発足から二年目を迎えて

徳栄町支部会長 青山敏雄

産声をあげ、試行錯誤を重ねて一年の歳月が流れました。育てて戴いた関係皆様感謝致します。

去る五月二十一日、平成十七年度の総会・懇親会を行ない、会員四二九名が力を合わせ更に親交を深める二年目のスタートが出来ました。そして六月八日、板倉ゴルフ場で親睦コンペを行ない、十一月二日第三回コンペを予定しております。次いで会報第二号は、仲間の情報交換や友情を深める味わいのある会報発行に努めたいと思っております。これからも更なるご指導ご協力をお願い致します。

千代田支部の活動状況

支部長 武井章良

千代田支部では年に一度、秋に総会を行っています。

それに合わせて、ゴルフ大会およびグラウンドゴルフ大会を行い、会員相互の親睦を図っています。

昨年（平成十六年度）の例を挙げると、総会は新田家（赤岩）で行い、参加人数は約三十名でした。

ゴルフ大会は板倉ゴルフ場で行い、九名の参加者で和気藹々のうちに終了しました。

また、グラウンドゴルフ大会は東部運動公園（上五箇）にて行い、参加人数は七名でした。

お互いに同窓生との絆が十分深まったと思えます。

総に参加者の高齢化が懸念されていますので、若い人達の参加を期待しています。

太田新田支部活動

支部長 小林廣吉

太田市も新田郡の三町と合併し二十一万七千有餘の人口となり、今後の街づくりが楽しみです。

さて本校の在籍生が大泉・徳栄支部を越え六支部中、地元館林についての在籍生が多い事を知る、同窓生も必然に多い訳である。

近年の集りですが十五・二十人位の馴染みの集りで橋本（先生）を中心とした集りがある親交を深めています。来年は若い世代の入会も約束しています。さらなる皆々様の知恵を拝借戴き会員の拡大をしたいと思っております。太田市在住の同窓生を知っている方は是非ご連絡下さい。

0276 (45) 1701
0276 (45) 7211

支部活動

OB登場

一昨年12月から本年5月まで、第78代群馬県議会議員の要職を担って勤めました。

在任中、会員各位には、温かいご指導、ご協力を賜り、「いっしょに、厚く御礼申し上げます。

この間、昨年10月、全国健康福祉祭に寄附金贈下・同窓会下がり奉賛、11月には、国賓として海外中のデパート・女王陛下、国王陛下下ご案内のため、天皇皇后両陛下がご来賓され、随分喜んで頂け



県議会議長になって
二十五年卒 笑口 昇氏

誠に有難くありません。

また、海外出張にも積極的に参加し、三ツヤンマーを訪れ、過酷な競争の裏面を感じるとともに、風化させることなく後世に伝えていかねければならないと、改めて強く感じて参りました。

時代は、大きな変革期を迎えており、国際化や少子高齢化等の社会変化、さらに、自然環境の保全等の地球環境問題に対し、県が主体的に対応することが求められており、必要であります。

今後は、三位一体の改革をはじめとす、真の地方分権の確立に向け、県政推進、県民福祉の向上のため、「一生懸命取り組みたい」と考えております。

結びに、光は東方からであります。母校の限りない愛護を願っております。

笑口 昇 群馬県議会議員
第78代群馬県議会議員



我が人生の土台は館高にあった
三十八年卒 岡 康弘氏

卒業後即就職、42年間の社会人経験を過ごす事が後輩の道徳決定に多少とも役立つ事を祈り存じます。入学当時自分の将来は漠然と親父の家業を継ぐ事とし商売科を選択、部活は2学期にサッカー部に入部、動機は夏休みに「欧州スクーター旅行」(ある種の冒険旅行記)と言う本を読み自分も海外へ行きたい、その為に体を鍛えようと思った事。極めて単純な理由。当時は観光目的の海外旅

行は規制され、一般人の海外旅行は簡単で無かった。在学中はサッカー、英語、海外事情の勉強に夢中、就職は業務通訳が可能な商社の紹介を得て入社試験に合格、日英通訳が合格理由と後日聞いた。面接試験が夏の合宿中に実施された事が幸いした。入社後は経理部配属、情報システムの開発に従事、24歳で海外出張(アメリカ、カナダ)を経験した後、香港、シドニー駐在とアジア、オセアニア各地を中心に殆ど、中長期的出張を通じ多くの異文化を体験出来た。海外交流は人種、言語に関係無く、誠実な行動が基本で言葉はその手段である事を学ぶ。

困難に立ち向かう時はサッカー部の厳しい練習を仲間達と励みあしみを共有した経験が役立ち、館高はその土壌であったと思っている。

最後に、卒業生各位に、感謝とご挨拶。同窓会には、是非ともご参加下さい。海外出張の際は、アメリカ・カナダ・ヨーロッパ・ニュージーランド等には必ずご挨拶下さい。

岡 康弘 経理部部長

恩師登場

館高の思い出
谷田員 健先生



過ぎ去る年月の流れは矢の速に速く、捉えようもない。私が初めて館高に赴任したのは昭和二十五年十月で、もちろん当時は木造校舎、校庭には松林の風情が残っていた。以来三十七年三月迄と昭和五十年から五十九年迄と二度お世話になった。前後二十年余を越す長い期間であった。館林女子高はじめ男女共学校、実業校と他校にもお世話

になったが、私にとっては最も印象に残る勤務校であった。眞実剛健をモットーにそのさっぱりとした校風は何物にも勝るものだった。それだけに張り合いもあり楽しくもあった。その後、校舎の増改築を重ね、名実ともに東毛の拠点校として現在に至ったのである。昨今は進学状況も極めて良好と聞き及んでいる。私の如き旧職員も心の底から拍手喝采を送るものである。どうか今後とも職員生徒一同、一致協力して理想の学園建設に邁進して欲しいものである。

谷田員先生は、昭和16年より館高に在職、卒業生は約1000名に達した。卒業生は海外、海外でのスポーツ活動の指導にも尽力し、指導員としては、専ら、心なかに誇りに思っている。卒業生の中には、卒業後10年以上は館高に在職して来た。

生徒と共に
松原茂樹先生



昭和四十年代を思い出して一筆書いてくれ・・・と

教師になって、オタオタしていた時代です。生徒との付き合いで困っていた頃、当時の生徒指導をなさっていた鈴木先生が「考え込まず、自分を出せばいいんだよ」の言葉で救われました。当時の生徒は、「大人」でした。私の数々の失敗を笑って許してくれるし、土、日には、下宿に遊びに来てくれて、いろいろア

ドバイスをくれたものです。また、宿直のときは、寂しいだろうと言うつつ、押しかけて交月給の中から、ラーメンをおごらせられ、おかげで毎月金欠病が続きボーンナスがたよりでした。思い出するのは美しいことばかりです。授業の思い出は、人口問題の授業で当時、地理学会の会長をなさっていた塾師、岸本教授の影響で、「フォッサマグナ」を境として東西で結婚をするのが理想だぞ！などと熱弁を振るっていたのを、恥ずかしく思い出します。

今でも、年賀状や電話を頂くたびに、この人達にじぶんは、育てられたんだと、感謝しております。

私は今、坂谷市の委嘱を受けて、子供の育成事業に勤めています。

松原先生は昭和19年より45年まで、そして約半世紀にわたる館高の歴史を共に歩いた。卒業生は約1000名に達した。

●今年のゴルフ●
「同窓会ゴルフコンペ」開催される

第6回館林高校同窓会ゴルフコンペは、やや肌寒い空のもとに5月11日(水)、板倉ゴルフ場で93名の参加者を得て開催されました。先輩後輩が親睦を深めつつ、真剣にラウンドしました。

その後のパーティーには岩瀬同窓会長、伊藤校長もかけつけて、皆さんと健闘をたたえ合い、楽しいひとときを過ごしました。

成績は次の通りです。

- 優勝 荒井 昭 (東京)
- 準優勝 松崎 滋夫
- 三位 中村 貞夫 (徳島)
- 四位 勅使河原卓一(徳島)
- 五位 小久保 満(千代田)
- ベストスコア 76 荒井 昭 (東京)



プレイ後の表彰式もパーティ

●今年のゴルフコンペ参加者●
期日 十八年五月十一日(水)
●曜日の変更になりました。
会場 板倉ゴルフ場
どうぞお誘い合わせのうえ、地区役員または支部長までお申込みください。

館高Now

第26回「50km強歩」開催される

4月23日、日も上がって間もない河原に全校生徒の声が上がった。年に一度の恒例行事「50km強歩」である。

一年生はまだ学校に慣れていない者さえている中、やはりこれからの道のりにどこか不安げな表情を見せていた。対して、二・三年生は余裕、あるいは一種悟った顔である。

ご父兄や地域の方々の応援を受け、生徒達はひたすら歩き続けた。給水所でキウウリや麦茶で燃料を補給し、そしてまた歩き続ける。

ゴールした時は疲れ切って、へたりこんでしまう。しかし、完歩率は66パーセント。立派な数字は、これからの高校生生活を象徴していると信じたい。



全クラス対抗球技大会



一学期の期末考査も終わり、7月11・12日に校内で球技大会が行われた。学ぶ時は学び、遊ぶときは遊ぶというメリハリの効いた生活を実践するかのようには、皆楽しく真剣に優勝を目指して各球技に打ち込んでいた。球技はサッカー・バスケットボール・バドミントン・ソフトボールの四種である。

●定時制だより

四月七日の入学式で、今年は十七名の入学を許可しました。

五月十六日には、同窓生で元本校定時制教頭の荻野次雄先生を講師にお願ひし、開校記念講演会を実施しました。先生は「定時制についての思い出」と題し、ご自身の興味にまでわたり幅広くお話しくださいました。先生の熱心なお話により、生徒達は引き込まれて聞き入っていました。

部活動では、六月の県大会の結果、陸上競技部の加藤恵理さん・中村淳也君・澤田和也君の三人とバドミントン部の竹内俊明君・中村聖一君・飯島清一君・加藤恵理さんの四人が八月の全国大会に出場することになりました。

七月四日には館林自動車教習所をお借りして交通安全教室を実施しました。館林警察署・館林自動車教習所・館林二輪車協会・館林交通安全協会の指導で、講義と実技講習が行われ、大変有意義な時間を過ごすことができました。



開校記念講演会

進路状況

今年度の進路決定状況は、四年制大学に206名(87%)、短期大学に1名(0.4%)、専門学校に14名(6.0%)、留学・大学校に2名(0.8%)という結果でした。

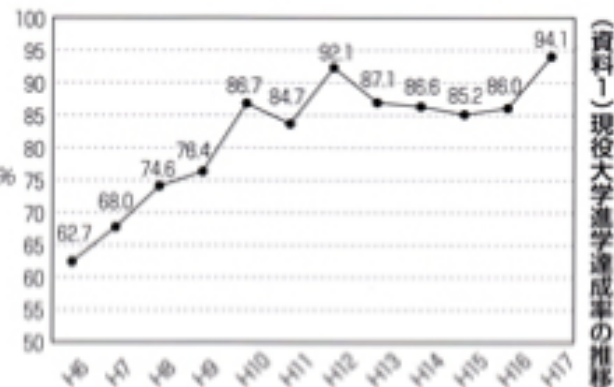
また、現役合格を目指しながらも残念ながら浪人してしまった人は13名(5.5%)であり、例年に比べて半減しました。進路決定率は94.5%と極めて高い結果となりました。

現役大学進学達成率(四年制大学進学希望者に対する四年制大学進学者の割合)についても94.1%(資料1)と、館高史上最高の結果となり、いわゆる「進学校」の中では県内はもちろん全国的に見てもきわめて高い達成率になっています。

個別では、新潟大学医学部医学科(医学科に合格するのは二三年ぶり)、北海道大学工学部、金沢大学工学部、横浜国立大学工学部、防衛大学校理工学部合格者が出るなど、内容的にも良く健闘したと言えます。

これらの結果は、入れる大学を受験するのではなく、自分の入りたい大学、やりたいことの出来る大学を目指して、生徒が最後まで粘り強く頑張ったのももちろんのこと、先生方、保護者の皆さん、同窓会の皆さんが一致協力して生徒の夢を叶えるために努力した賜物であると感謝しています。

今年度の主な合格四年制大学は、資料2の通りです。



(資料2) 主な合格四年制大学

私立大学	国公立大学
上智大学	1
明治大学	9
中央大学	7
東京理科大学	10
芝浦工業大学	14
日本大学	24
東洋大学	20
駒澤大学	9
専修大学	13
獨協大学	20
同志社大学	2
など	469名
北海道大学	1
群馬大学	20
埼玉大学	6
千葉大学	2
東京学芸大学	1
横浜国立大学	1
新潟大学	3
金沢大学	1
信州大学	2
静岡大学	2
高崎経済大学	3
など	55名

館高Now

部活動状況

部活動の意義は、心身の健康はもちろん、学業では味わうことのできない感動や現在では希薄になりつつある人間関係を築くために重要な役割を持つ。本校では、学業と部活動の両立に悩む生徒が多い中、個々の目標達成に向けて頑張っていると思う。しかし、未知の力を持つ生徒たちの限界点を向上させ、強くたくましい心身の発達を促すようより一層の精進を期待したい。



で行われ、残念ながら多選で敗退してしまいました。水泳はこれからがシーズン本番、県総体・新人戦とがんばっていきたく思います。応援よろしくお願いたします。

【山岳部】

今年の県総体では、三位に入賞した(2年連続)。この結果九度目の関東大会出場となる。しかし部員一同は、関東大会出場では満足できず初のインターハイ出場へと闘志を燃やしている。夏山合宿では、北アルプスの豊稔嶺ガ岳・五竜岳への縦走を計画しており、それに向けてトレーニングに励んでいる。部員は二年生八人、一年生三人と以前と比べ人数はやや少なくなったものの、少数精鋭で多くの山々にチャレンジしていきたい。

【新聞部】

創刊は昭和24年ですが、長らく休刊していた時期もありました。現在のスタイルに落ち付いたのは平成7年の復刊時からです。年間約40回の速報版発行は県内最多クラスに属し、各種の高校生新聞コンクールにおいて高い評価をいただいております。今年も県代表として全国高校総体文祭(青森県)に出場いたします。

【昇龍部】

平成十六年九月四日(土)に館林三の丸芸術ホールで本校主催の第五十三回全国高等学校剣道決勝大会を開催しました。全国より十九名の昇士が集い、成功のうちに終了できました。また、全国高等学校総合文化祭青森大会には県代表で参加します。

今年の決勝昇龍大会は、九月二日(土)に同じ芸術ホールで行われます。部指導員協力を御願いたします。

☆☆部活訪問☆☆

伝統誇る「サッカー部」

昨秋の選手権大会に引き続き、本年度の県総体もベスト4と素晴らしい結果を残すことができました。2大会連続ベスト4という成績からわかるようにチームは着実に力を付けてきています。しかし上の前橋商業、前橋育英との実力の差はまだあります。結果に甘んじることなく、その壁を越えるため選手たちは必死です。今後残るメンバーがこの伝統を引き継ぎ、さらなる偉業を成し遂げてくれることでしょう。

本年度は新たに力のある23名の1年生も加わり、部員数は総勢45名となりました。人数であるため部内でも非常に激しい競争が日々繰り広げられ、選手はその刺激とプレッシャーの中で緊張感を保ち、本当に一生懸命頑張っています。

新チーム結成後、最初の目標は9月25日(日)に初戦を迎える選手権大会での古豪復活、優勝です。どうぞ応援よろしくお願いたします。



高校総体などの結果報告

【レスリング部】

団体優勝 館林6-1前橋西
個人フリー 優勝3名三位3名
グレコ 優勝3名二位4名
関東大会 7名出場

【サッカー部】

ベスト4 館林0-4前橋商
バレーボール部

【ソフトテニス部】

3回戦 館林0-2中央
団体ベスト16 館林0-2農二

【山岳部】

総合3位 関東大会出場
軟式野球部

【軟式野球部】

1回戦 館林0-8太田
卓球部

【卓球部】

団体ベスト16 館林0-3
バスケットボール部

【バスケットボール部】

ベスト8 館林61-127育英
バドミントン部

【バドミントン部】

団体ベスト8
シングルスベスト32

【テニス部】

団体ベスト8 館林0-2太田東
空手道部

【空手道部】

団体組手ベスト16
個人形ベスト8 相手ベスト16

【ソフトボール部】

ソフトボール部
1回戦 館林3-10太田東

【陸上競技部】

陸上競技部
100m、110mハードル準決勝進出

【剣道部】

剣道部
団体ベスト16 館林0-3前橋西

【ボート部】

ボート部
琵琶湖レガッタ準決勝
関東大会出場

【水泳部】

水泳部 関東大会2名出場
硬式野球部

【硬式野球部】

硬式野球部
夏季大会1回戦 館林0-10樹徳

【ボート部】

ボート部
現在のボート部は、3年生5名、2年生3名、1年生1名計9名で活動しています。特に3年生で構成されるクオドルブルスカルは、小柄ながらも複数の大会で結果を残してきています。今

今年、近年にない七名の新入部員を確保し、部全体が盛り上がりつつある。県総体では、四年ぶり27回目の優勝を飾り、インターハイ予選においても二年連続35回目の優勝を果たし、個人戦でも三年生の4名が優勝し、最後の夏をものにした。伝統ある館高レスリング部の魂を燃やしていきたく。

【ボート部】

現在のボート部は、3年生5名、2年生3名、1年生1名計9名で活動しています。特に3年生で構成されるクオドルブルスカルは、小柄ながらも複数の大会で結果を残してきています。今

夏のインターハイでも、良い成績が期待できると思います。また、1、2年生も着実に実力を伸ばしてきているので、3年生が引退した後の大会でも、他校に見劣りすることなくレースが出来ると思えます。これからも、部員達が満足できる成績を残せるように、練習に取り組んでいきます。

【水泳部】

今年度は、6月25日(土)、26日(日)に敷島公園水泳場で行われた関東大会予選会では、県内第3位に入賞することができました。団体で、400mフリーリレー、400mメドレーリレーで関東大会に出場が決まりました。また、個人では2年生・坂田芳泰が100m、200m平泳ぎで、1年生・藤崎和也が200m、400m個人メドレーで関東大会の切符を手に入れました。関東大会は山梨県甲府市

* 高校総体男子総合10位(昨年21位)

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月12日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で7回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和47年卒業生たち



↑昨年の総会で「奮ってご参加下さい」と呼びかける今年の代表幹事たち

日時：平成17年11月12日(土) 午後5時

会場：ベルジュネ館林 (TEL.0276-72-2801)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

*4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

平成17年 総会幹事

43年卒	47年卒	48年卒	49年卒	44年卒	43年卒	42年卒	41年卒	40年卒	39年卒	38年卒	37年卒	36年卒	35年卒	34年卒	33年卒	32年卒	31年卒	30年卒	29年卒
大沢 孝	山岸 孝	早川 元久	津形久高	山田 孝九	野村 博久	渡藤 和昭	神田 静一	大橋 薫	尾花 善昭	白井 佳良	澤田 善雄	横田 常司	大塚 幸雄	山田 中	中島 大八	岡野 上	川生 宏	小川 清	新井 耕一
原 康弘	井出 康弘	久保田進也	渡沢 哲聖	井野口晋平	藤原 康幸	藤岡 正	伊藤 啓三	伊藤 啓三	小宮 健雄	高橋 敏	和田 平明	藤田 洋行	小林 克夫	藤田 勝	藤橋 博	石井 俊雄	原 保明	原 保明	原 保明
渡辺 金子博	金子博	渡辺 金子博	中島 清	日比野正孝	早川 紀正	若田 豊	初谷 充敏	初谷 充敏	初谷 充敏	初谷 充敏	初谷 充敏	宮内 敦夫	増山 豊臣	長谷川正博	手島 和雄	手島 和雄	手島 和雄	手島 和雄	増山 芳弘

〈二面からの続き〉

アンケートにご回答下さった恩師のご芳名(順不同)

飯塚 博久/高橋 俊司/金井 秀一	清水 謙介/尾藤 聡/塩田 栄	尾形 哲男/横山 幸/田中 道夫	松原 茂樹/松本 孝智/小野田かつ江	築比地 真/森 猛/越沢 浩	井田 宏一/清水 貞保/田口 義行	長岡 正範/細田 浩/亀山竹三郎	小濱 信一/西木 達郎/野村 圭一	安藤 亮二/早川 和男/奈良部豊雄	市川弘太郎/相沢 繁光/橋 孝司	木村 哲嗣/源 悟道/谷田貝 修	松本 宗二/荒井 春美/藤巻 光夫	渡辺 益男/須藤 宣/関口 久
-------------------	-----------------	------------------	--------------------	----------------	-------------------	------------------	-------------------	-------------------	------------------	------------------	-------------------	-----------------

編集後記

会報編集委員会は発足して早三年、会報5・6・7号の発行に携わってきた。振り返ってみると、以前は事務局

事務局より

- 総会幹事をご推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いたします。
- 次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送りください。
- 座番 00552010272533
- 座名 群馬県立館林高等学校同窓会
- 事務局 (町田、寺崎、森、藤)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0001 群馬県館林市第十町1-1-1
TEL 0276-72-2801
http://www.educ.pref.gunma.jp/gakou/kou/taishokuryu/